慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	片岡, 一郎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.6 (1952. 6)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19520601-0075

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

最近興味深く讀んだ本に「日本の精神的風土」（岩波新書、飯島浩二著）がある。敗戰に伴う國家としての自主性の喪失は、無條件降服という事情の下においては或る程度止むをえないとしても、もしそれが國民一人一人の魂における問題であるとするならば由々しきことがらである。しかしこのような問題は果して敗戰という事情の下においてのみ現われた問題であろうか。むしろそれは日本人の傳統の奥深く根ざし、日本文化の本質的な一面をなしていたのではなかろうか。あの憂鬱な戰時において、たとえそれを好んでしたとはいわないまでも、吾々は國民服をまといゲートルを巻くことによつて自己の存在を他のみんなの中に沒入させ、とがめられまいとつとめて來たのであり、このことをその善惡は別として、ナチにおけるかの茶色のシャツや黒の服裝と對比するときどうであろうか。ナチの場合においてはそれらは「彼等一味徒黨の闘爭的な自己主張」を象徴していたのに、我國のそれは、明らかに一種の自己否定の表現であり、「はじめから自己否定を象徴した保護色の一種」に外ならなかつた。

國民待望の獨立は形式的には與えられたが、果して日本民族の精神における獨立が我々一人一人のものとなつているであろうか。獨立自尊への確信と努力とに終始した我々も今一度精神における此の獨立について厳しい自己批判を要するものがありはしないか。

（片岡一郎）

昭和二十七年五月二十五日印刷
昭和二十七年六月一日發行

第四十五卷　第六號

定價　七拾圓
送料　四圓

編集兼發行者　東京都港區芝三田慶大經濟學部内　高村象平

印刷所　東京都港區芝三田豊岡町八　圖書印刷株式會社　川口芳太郎

豫約購讀料
一年分　金八四〇圓（送料共）
半ケ年分　金四二〇圓（〃）

發行所　東京都港區芝三田二丁目　慶應義塾大學經濟學部研究室内　慶應義塾經濟學會